

【施工監理はオリコンサルグローバルら ヤンゴン・マンダレー鉄道、環状鉄道改修が合同起工式】

ヤンゴン・マンダレー鉄道、 環状鉄道改修が合同起工式

施工監理はオリコンサルグローバルら



関係者らによる鍬入れ

ミャンマーの主要3都市を結ぶ「ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業（フェーズ1）」とヤンゴン市内を走る「ヤンゴン環状鉄道改修事業」の合同起工式が18日に現地で開催、同国のタン・ズイン・マウン運輸通信大臣、ピョー・ミン・ティンヤンゴン管区政府首相ら要人とともに、米澤栄二オリエンタルコンサルタンツグローバル社長、元木大平フジタ執行役員、湯川英彦きんでん取締役専務執行役員、塚本英彦日本信号社長らが出席した。

今回はヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業（フェーズ1）で発注される8パッケージのうち、CP101（パズンダングバゴ間土木工事）区間（約70・8キロ）と、ヤンゴン環状鉄道改修事業（46キロ）で発注される2パッケージのうち、CP201（信号工事）が起工した。

前者はフジタと日本信号、住友商事、後者は日本信号と

きんでん、住友商事が施工に当てる。両事業の入札支援と施工監理業務は、オリエンタルコンサルタンツグローバルを代表者に、ヤンゴン・マンダレー鉄道は日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、トーニチコンサルタンツ、日本工営のJ.V、ヤンゴン環状鉄道は日本コンサルタンツと日本工営のJ.Vがそれぞれ担当する。

前者はフジタと日本信号、住友商事、後者は日本信号と